

《短 報》

負荷 ^{201}Tl 心筋シンチ早期像と安静時 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -tetrofosmin 心筋シンチ像を用いた二核種同時収集による新しい負荷プロトコールの検討

前野 正和* 松尾 剛志* 今村 卓郎* 小岩屋 靖*
江藤 胤尚* 長町 茂樹** 陣之内正史**

要旨 虚血性心疾患の疑いにて冠動脈造影を施行した 24 例に対して、負荷時に $^{201}\text{TlCl}$ (Tl), 安静時に $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -tetrofosmin (TF) を用いた負荷心筋シンチを施行し、冠動脈病変の検出能について検討した。軽食後約 1 時間後の安静時に TF 555 MBq を静注し、その 3 分後より運動および薬物負荷を開始、最大負荷および薬物の至適投与時に Tl 111 MBq を投与した。負荷終了 5 分後より triple energy window (TEW) 法を用いた二核種同時収集を開始した。また、4 時間後より Tl の後期像を撮像した。Tl 早期-TF 法 / Tl 早期-Tl 後期法それぞれの非梗塞冠動脈枝の検出では、sensitivity 79%/53%, specificity 78%/96%, accuracy 79%/71% であった。心筋梗塞部における TF 像と Tl 後期像の完全一致率は 70% であった。本法は短時間プロトコールであり、虚血や viability の検出において従来の Tl 負荷心筋シンチと同等の有用な方法と思われた。

(核医学 38: 105-112, 2001)